2021年
7月
第12号

Medi-Way 医療通訳だより

Medi-Way 医療通訳者紹介　Vol.12　スペイン語担当　Lili（リリ）さん

◆なぜ医療通訳者になった？

私はペルー生まれの日系三世です。12歳で日本に移り住んだ頃は日本語を全く話せませんでした。だんだん日本語が話せるようになると、両親や兄弟が病気になった時や行政手続きで困った時など、私が大人の言葉も分からないまま一生懸命通訳していました。大人になって、私や私の家族と同じように困っている人たちのお役に立ちたいと思い、大阪大学の医療通訳養成コースを修了し、プロの医療通訳士を目指しました。

◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

子どもが病気で、不安もあって恐い顔をしていたお母さんが、私が通訳に入ると安心した顔で泣き出し、やがて笑顔になってくださったことがありました。普段、一人ひとりの伝えたいメッセージをできるだけそのまま通訳するよう心がけていますが、時には感情的になる患者さんもおられます。そうなると話が止まらず、こちらから止めることもできず通訳が難しくなります。文化の違いが原因のトラブルも多いため、しっかりと傾聴することがとても大事だと思います。そういう姿勢が患者さんに通じたのか、最後には安心して「あなたは分かってくれると思った。」と言ってくださった、それが今までで一番嬉しかったことです。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

長時間予習をしすぎるとかえって緊張してしまい、せっかく覚えた単語がスムーズに出てこなかったり、練習で声を出しすぎて通訳の時に声の調子が悪かったりします。そのため、通訳の一時間前から集中的に予習をすることと、リラックスを心がけるようにしています。また、通訳の内容によっては、私の気持ちが嬉しくなる時も悲しくなる時もあります。そんな日は気持ちの切替えをするために、エアロビクスで気分転換したり、好きなベルガモットの香りを楽しむことで次の日に備えています。ドラマファンなので、医療ドラマ「グレイズ・アナトミー」のスペイン語版や南米のホームドラマを見て、日常的な会話をマネすることで自然な通訳になるよう心がけています。

ちょっと一言　それって何て言うの？

「ワクチンは打ちましたか？」

英語「Did you get vaccinated?」

中国語「接种疫苗了吗？」
(ｼﾞｪｼﾞｭﾝ ｲｰﾐｬｵﾗﾏ?)

ベトナム語「Bạn đã tiêm vắc-xin chưa?」
(ﾊﾞﾝ ﾀﾞｰﾃｨｴﾑ ｳﾞｧｸｽｨﾝ ﾁｭｱ?)

スペイン語「¿Ya se ha vacunado?」
(ﾔ ｾ ｱ ﾊﾞｸﾅﾄﾞ?)

ポルトガル語「Ja Tomou a vacina?」
(ｼﾞｬｰ ﾄﾓｳ ｱ ｳﾞｧｯｽｨｰﾅ?)

今月のトピックス

「通訳者あるあるVol.1－通訳者泣かせの…」

医療通訳者の間で語り草の逸話があります。
「手術の後はダンセイストッキングを履いてもらいますね。」と言われた通訳者、「えっ、(患者さんは) 女性ですが？！」これは「弾性ストッキング」の「弾性」を「男性」と勘違いした例で、頻出する医療用語はちゃんと学習しておかないといけないという戒めの逸話として知られています。耳で聞いて反応する私たち通訳者にとって、この同音異義語は本当に“通訳者泣かせ”なんです。「親知らずのバッシです。」と言われて「抜歯」なら麻酔のお話も出るかと思っていたら「抜糸」だったり、皮膚科の通訳で「カンセン」と言われて「感染」と通訳したら「乾癬」だったので慌てて訂正した等々、通訳者たちが挙げてくれたエピソードには、なるほどと思わされるものがたくさんありました。
“通訳者泣かせ”は同音異義語だけではありません。英語の通訳者から、ドイツ人の患者様が「イーカージー」とおっしゃって一瞬「？」と思ったが「EKG」(心電図) のことだとピンと来て事なきを得たという体験談も出ました。ドイツ語読みが混在していたというわけですね。
私たちは“通訳者泣かせ”に惑わされることなく、しっかり集中して通訳にあたっていきます。「この疾患はヒトクイ的な…。」(非特異的) と言われても決して「人食い」とは通訳しませんよ☺

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015　大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail:tic@towaeng.co.jp